大阪府河川整備審議会　令和５年度第２回治水専門部会　議事要旨

日　時　：令和５年 10 月 16 日（月曜日）17:00～18:15
場　所　：西大阪治水事務所１階会議室（WEB 併用）
出席者　：（委員）中桐部会長・小林委員・阪本委員・里深委員　　計４名
内　容　：

将来的な降雨量、流量の増大を想定した場合の治水対策の進め方の検討
・現時点では、河川整備の進捗状況等や実績降雨の分析結果を踏まえ、現河川整備計画における当面の治水目標の達成を優先
・併せて、流域のあらゆる関係者が、ハード・ソフト一体で多層的に取組む治水対策について検討
・将来的に降雨量が増大する想定の下、現河川整備計画の目標達成状況に合わせた次期計画への変更検討のため、府域の気候変動の影響予測や課題等を整理

概　要　：〔以下、○委員　●事務局〕

○大阪府では、現時点で気候変動の影響は確認できないため、限られた現予算の範囲内で可能な対策を実施するという考え方か。
●国費の獲得も含め、事業費を確保していきたいと考えており、国への要望活動等を行っている。しかし、人件費や資材価格の高騰で事業費が増加してきていることもあり、現時点で河川整備の方針を変更したとしても、整備済み河川の再整備が必要になる手戻りや、府全体の当面の治水目標の達成時期に遅れが生じる。府内一律の計画変更は困難と考えているが、気候変動に対する準備については、可能な限り進めていきたい。
○河川整備が７、８割完了していれば、整備目標の引き上げに着手してもよいかもしれないが、現在はそのような状況にない。目標を大きくしても整備が進むわけではなく、将来、目標を変更した際に、現在進めている整備に手戻りが生じない形を目指すことが必要である。
○計画を超える降雨は必ず発生するため、その際、どのような考え方で河川整備を進めているのか説明できることと、被害を最小化するような対策をどの程度取れているかが重要である。
●現河川整備計画のハード整備と併せて、逃げる・凌ぐ施策を多層的に進めつつ、府域における気候変動の影響予測や治水安全度のバランス、各河川の特性を踏まえて気候変動への対応についても準備を進める。
○実績降雨の分析結果において、現時点で確率降雨量の増大は見られないが、これは、今後、大阪府で降雨量が増加しないということではないため、情報発信の際に誤解が生じないよう考慮頂きたい。
○全国的な動向や近年発生した府域の降雨事象など、実績降雨の分析を実施した理由を記載した方がよいのでは。
●実績降雨の分析結果については、誤解を生じないような表現に修正する。
○全国的に気候変動により降雨量が増える傾向がある以上、リスクは高まるため、逃げる・凌ぐ対策を早急に進めなければならないことを示す必要がある。
○治水対策は、河川管理者が実施するハード整備に限定されたものではなく、ソフト対策も両輪で進めるものということを明確に記載した方がよいのでは。
○今後、大阪府としてどのようなメッセージを発信していくのか、検討いただきたい。
●次回の河川整備審議会では、逃げる・凌ぐ・防ぐ施策を多層的に進めていくという考え方を丁寧に説明させて頂く。